

第 10 回 FD ワークショップ（授業デザインWS⑦）  
総合教育科目の意義・役割が見えない現状をどう変えるか  
—シラバス分析に基づく「見える化」の試みと躓き—

全学共通教育科目の履修は、本学学生の総合大学としての学びにおいて重要なものと考えられます。しかし総合教育科目については、その総合性や多様性ゆえに、役割や位置づけを学生が理解しにくいという現状があります。大学教育研究センターでは、このような現状を打開するために、全学共通教育科目のあり方に関連してこれまでに全学共通教育教務委員会等で議論されたことも踏まえ、本学において現在、どのような総合教育科目がどのような到達目標・学習目標を掲げて展開されているのか、その全体像を把握するための試みを開始しました。第 10 回 FD ワークショップではその途中経過を踏まえて、シラバスのあり方を中心に大阪市立大学の教育の「見える化」をどのように進めるかについて議論したいと思います。

最近では教育情報の公開義務化などの動きもあって、シラバスをどのように執筆するかは、多くの教員の頭を悩ませる問題になっているかと思えます。しかし、シラバスはそもそも何なのか、何のために存在しているのかについての共通理解は必ずしも十分ではないように思われます。ワークショップでは、「授業を『見せる』ことで学生の学習を支援する」というシラバスの本来の役割に立ちかえり、シラバスのあり方について改めて検討したいと思います。この観点は今日の状況においては、『市大の教育を広く世界に見せる』ことにもつながります。皆様ぜひご参加ください。なお、当日はご担当授業のシラバスをお持ちください（共通教育のものでも専門教育のものでも結構です）。

日時：2011 年 7 月 8 日（金） 13 時から 14 時 30 分

場所：全学共通教育棟 2 階会議室

話題提供：「シラバスの役割からシラバスのあり方を考える：全学共通教育の見える化の試みを踏まえて」（大学教育研究センター 西垣順子）

司会：飯吉弘子（大学教育研究センター）

主催：大学教育研究センター  
共催：全学共通教育教務委員会